

現代の小泉八雲として活躍するCIR

島根県松江市観光振興部国際観光課

小泉八雲の再来！

島根県の県庁所在地である松江市は、1890年に日本を訪れた小泉八雲（＝ラフカディオ・ハーン）の最初の赴任地で、生涯の伴侶と出会った縁結びの町です。また、その文筆を通じてこの地から「日本」を世界に発信した縁で、京都市、奈良市と並ぶ「国際文化観光都市」でもあります。賑々しくテーマパーク化された「日本」ではなく、今なお八雲が愛したままの自然と街並みが数多く残る中で、まるでタイムスリップしたかのような「日本」を体感できる一方、海外において観光地としての認知度はまだまだ低いのが現状です。

松江の主要産業である「観光」、とりわけ訪日観光客の誘致（＝インバウンド）を一層推進するため、2011年度より、それまで総務部国際交流課の所属であったCIRは観光振興部国際観光課の所属となりました。そして、従来の通訳・翻訳業務、自国の文化を市民に紹介する国際理解講座の開催といった国際交流業務に加え、自らが日常生活の中で発見したこの地の魅力を吸収し、自国または母国語の通じる国々に向かって自分の言葉で表現するという地域に密着したプロモーション業務を担う、まさに現代の八雲として活躍することになりました。

SNS等による情報発信

現在、松江市で活躍するCIRは、バーニース・デンプシー（アイルランド出身）、ルーク・ポマレード（フランス出身）、金 厚鎮（キム フジン・韓国出身）、胡 青慶（コ セイケイ・中国出身）、

ブリタニー・パーティン（アメリカ出身）の5人です。彼らは言語ごとに最適な媒体を選択し、24時間アンテナを張った積極的な取材のもと、松江市および周辺地域の情報発信を行っています。

現在、市の公式ブログとして更新するのは、バーニースさんの英語圏ブログと、胡さんの中国向けウェイボー微博（中国版Twitter）です。2011年5月に開設したバーニースさんのブログは世界各国にファンを有し、既に2万7,000アクセスを超えています。また、前任の劉さんから引き継いだ胡さんの微博は、現在ではフォロワー数も4,200人を超え、自治体による微博活用事例の中で際立った取り組みとして紹介されるほどです。ルークさんは、バーニースさん、ブリタニーさんと協力し、Facebook「松江シティーガイド」と在住外国人および個人観光客に向けて作成した紙媒体の英語版ニュースレターで、松江市で開催されるイベント等の最新情報を随時発信しています。

彼らの強みは、その「視点」です。訪日観光客・在住外国人がどのような情報を欲するか、どのような情報が魅力的に映るかを十分理解しています。観光情報の発信一つをとっても、国際交流課に配置されていた時には日本人の職員が考えた文章の翻訳のみでしたが、現在の業務の中では、彼ら自身が内容を吟味し、自分の言葉で表現するので、以前より説得力のある内容の発信が実現しました。

また、松江市民の目線とは異なる視点で撮影された彼らの写真は、美しく、情緒にあふれ、時に笑いを誘い、時に驚かせる作品で、松江の魅力を伝える大きなツールとなっています。さらに、アメリカ出身のブリタニーさんは自身のブログの中で、松江・島根に伝わる神話・歴史を特技の「マ

ンガ」を使ってわかりやすく伝えるなど、一人一人が流ちょうな日本語能力以外の特技を十分に生かして業務に携わっています。

【バーニースさんの英語圏公式ブログURL】

<http://madeinmatsue.com/>

【胡さんの公式微博URL】

<http://e.weibo.com/matsue>

【ブリタニーさんのブログURL】

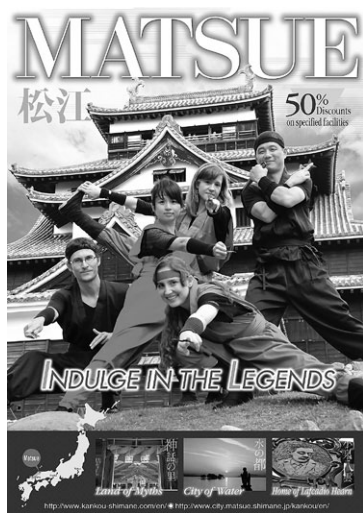
<http://saninstory.wordpress.com/>

インバウンドポスターのモデルとして

インバウンドの一層の推進のため、松江市では専用ポスターを作成することになりました。このポスターは海外エージェントとの商談会の会場等に掲示して松江の魅力を伝えるとともに、松江市内の観光施設等にも掲示し、松江市の官民一体となったインバウンドの気運の醸成を目的としたものです。

従来の日本の観光PRポスターは、シンボルとなる美しい景色や温泉などの紹介が多く、確かにどれも美しく、魅力的には違いないのですが、いかに他自治体との差別化を図り、人目を引くかが課題でした。

松江のシンボルと言えば、全国に現存する12天守の一つである「松江城」です。天守の平面規模



CIRがモデルになったインバウンド用ポスター（右から時計回りに、金、ブリタニー、ルーク、胡、バーニース）

では2番目、高さでは3番目、古さでは4番目で、国宝化も望まれている風格あるお城です。しかし、言い換えれば現存するお城は他に11天守もあるわけですから、「松江城」だけをポスターのモチーフにするのではなく、この地を訪れれば体感でき

る、生活の中に歴史・文化が刻まれている城下町の空気をもポスターの中に閉じ込めようということで、5人のCIRも忍者に扮し、モデルとして制作に携わりました。キャッチコピーの「INDULGE IN THE LEGENDS（伝説にどっぷりはまろう!）」もCIRの発案で、ネイティブならではのセンスあるものに仕上がりました。

宿泊施設でのおもてなし講師として

インバウンドの気運が高まる中、市内有数の温泉地である玉造温泉の旅館組合主催の訪日観光客に対するおもてなし研修にバーニースさんとブリタニーさんが講師として参画しました。訪日観光客の出身国ごとの傾向と対策、言語が不得意でも各国のあいさつをしよう、といった、お客さまを出身国でひとくくりにしたおもてなし技術に特化しがちな研修が多い中、2人の講師が研修で伝えた最重要ポイントは「外国人をひとくくりしないでください。特に松江まで観光に訪れる外国人は日本をある程度熟知し、その文化に魅力を感じる人に違いない。母国語であいさつをされ、自国と変わらない体験をしたとしても、記憶に残らない。それよりも一個人としておもてなしを受けた経験が、旅先での忘れられない思い出となる」でした。これは異文化や人種などに偏見を持たない小泉八雲の精神に通じるものです。また、おもてなしの良い例、悪い例をコミ



おもてなし講座でコントをするブリタニーとバーニース

カルなコントで演じる彼女たちの人柄に触れた受講者は外国人に対する苦手意識や緊張から解放され、国際理解の推進にもつながる研修となりました。

松江市のCIRは、目的遂行に向けて自らアイデアを出し実行します。今後も彼らに刺激を受けつつ、八雲の愛した日本の礼節、美徳を武器に、一緒にインバウンドの推進に取り組みます。